

読売俳壇

高野ムツ才選

たたみたる傘とくぐれる茅の輪かな

東京都 吉村 恵子

【評】参詣の途中で雨が降り出したのだらうか。やがて、茅の輪の前に到着した。まだ雨がちだが、傘を畳んで無病息災を祈り茅の輪を潜る。多忙な人の夏越の袂のひととき。

虹立ちて湖の広さの vari たる

久喜市 深沢ふさ江

【評】雨上がりの湖。どう広さが変わったか、想像に任されているが、薄れる夏霧の中に広がってゆく湖面と遠方に懸った虹が実に幻想的。青簾捲いて叡山ひき寄せる

泉佐野市 布野 寿

【評】簾を巻くと言えは、枕草子が思い浮かぶが、こゝでは雪の香炉峰ではなく、夏の比叡山。しかも、「引き寄せる」がなんともダイナミック。

みどり子の夢見るやうな白目紅

東大阪市 木田 博幸

剥き出しの鉄骨灼くるビル工事

神戸市 西 和代

ういんういんと蟬がねじ巻く夏が来た

福生市 金子 六月

消えた夢あれこれ想ふソーダ水

東京都 鈴木千枝子

夕立の音のかぶさる草野球

東京都 望月 清彦

ゴールしてプールの水を叩き悔い

土浦市 今泉 準一

捕虫網林の中へ出陣す

小田原市 北見 鳩彦

正木ゆう子選

紅花を摘むや明けゆく月の山

神栖市 桐本 博昭

【評】「紅花半夏ひとつ花」の言葉通り、半夏生の朝に一つだけ咲き、それを合図に次々と咲くという紅花。摘むのは朝露の乾かぬうち。月の山とは月山。山形県の県花である。髪の毛をねぢりあげたり半夏生

久留米市 川北 敦子

【評】一見暑そうながい髪も、アッパにすると、案外ショートより涼しい。後ろで束ねた髪を捻りながら上げ、丸めて留める。季語がぴたり。白靴を下ろせばきつと雨になる

熊谷市 松葉 哲也

【評】白靴を履く日はお天気が気になる。初下ろしとなると、なおさら。絶対に濡らしたくないが、そういう時に限って、雨が降るものである。菖蒲田はもう花殻を摘み終へて

東京都 新谷 房子

あめんぼの切羽詰まれば飛びにけり

白井市 酒井 康正

合歓咲いて暗峠明るうす

東大阪市 梶田 高瀬

雉と亀話してをり土手の下

鹿嶋市 津田 正義

雉に遭ひ子狐に遭ふ青田道

津山市 沢 紅子

裏返すことむづかしき蛇の衣

大阪府 池田 寿夫

夏の雲描く7B買いに行く

水戸市 加藤木よういち